

## ドメスティック・バイオレンスからのリカバリー

### ドメスティックバイオレンスとは

（配偶者からの暴力被害者支援情報 HP から：<http://www.gender.go.jp/e-vaw/index.html>）

「ドメスティック・バイオレンス」とは英語の「domestic violence」をカタカナで表記したものです。略して「DV」と呼ばれることもあります。「ドメスティック・バイオレンス」とは何を意味するかについて、明確な定義はありませんが、一般的には「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力」という意味で使用されることが多いようです。ただ、人によっては、親子間の暴力などまで含めた意味で使っている場合もあります。

配偶者暴力防止法においては、被害者を女性には限定していません。しかし、配偶者からの暴力の被害者は、多くの場合女性です。また、暴力の原因としては、夫が妻に暴力を振るうのはある程度は仕方がないといった社会通念、妻に収入がない場合が多いといった男女の経済的格差など、個人の問題として片付けられないような構造的問題も大きく関係しています。男女が社会の対等なパートナーとして様々な分野で活躍するためには、その前提として、女性に対する暴力は絶対にあってはならないことなのです。

#### ドメスティックバイオレンスの形態

一口に「暴力」といっても様々な形態が存在します。これらの様々な形態の暴力は単独で起きることもあります。多くは何種類かの暴力が重なって起こっています。また、ある行為が複数の形態に該当する場合もあります。

##### 1) 身体的なもの

殴ったり蹴ったりするなど、直接何らかの有形力行使するもの。刑法第204条の傷害や第208条の暴行に該当する違法な行為であり、たとえそれが配偶者間で行われたとしても処罰の対象になります。

平手でうつ	身体を傷つける可能性の	刃物などの凶器をからだ
足でける	げんこつでなぐる	につきつける
髪をひっぱる	首をしめる	腕をねじる
引きずりまわす	物をなげつける	

##### 2) 精神的なもの

心無い言動等により、相手の心を傷つけるもの。精神的な暴力については、その結果、PTSD（外傷後ストレス障害）に至るなど、刑法上の傷害とみなされるほどの精神障害に至れば、刑法上の傷害罪として処罰されることもあります。

##### 大声でどなる

「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う

実家や友人とつきあうのを制限したり、電話や手紙を細かくチェックしたりする

何を言っても無視して口をきかない

人の前でバカにしたり、命令するような口調でものを言ったりする

大切にしているものをこわしたり、捨てたりする

生活費を渡さない

外で働くなど言ったり、仕事を辞めさせたりする

子どもに危害を加えるといっておどす

なぐるそぶりや、物をなげつけるふりをして、おどかさ

3) 性的なもの

嫌がっているのに性的行為を強要する、中絶を強要する、避妊に協力しないといったもの。

見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌をみせる

いやがっているのに性行為を強要する

中絶を強要する

避妊に協力しない

(注：例示した行為は、相談の対象となり得るものを記載したものであり、すべてが配偶者暴力防止法第1条の「配偶者からの暴力」に該当するとは限りません。)

**自分はあてはまると思ったら**

セレブレイト・リカバリーは、安全な場所です。まずは、信頼できるグループリーダーまたはグループメンバーに、自分の状態を分かちあうことから始めてください。CR 主催教会は、DV 被害者支援に協力的である場合もあるため、主催教会の牧師/CR リーダーに話してみることも、包括的な支援を受けるための手掛かりとなります。または、DV 支援に関するパンフレット (CR 全体集会情報テーブルにも用意してあります) などを参考に、信頼できる CR メンバーまたはグループリーダーと共に、公的・法的な支援を探すことも始めてみてください。何よりも・・・自分はひとりではないことを信じ、勇気をもってだれか一人に分かち合い、助けを求めることから始めてください。